

口腔腫瘍学入門（安部貴大）

Introduction to Oral Oncology (Takahiro Abe)

キーワード

①口腔外科学 ②顎顔面外科学 ③頭頸部がん ④がんゲノム医療 ⑤抗体医薬

授業概要

口腔領域を含む頭頸部がんの診断、治療技術の発展は目覚ましく、外科療法、放射線療法、および従来の化学療法に加え、分子標的薬の適応がこれまでの治療成績を大きく変えようとしている。がん治療を目指す口腔外科医にとって、これらの進歩にしっかりとついて行かなければならず、本授業は多職種チーム医療を構築するうえでの共通言語となる基礎を習得するステージと位置づける。

授業科目の学修目標

口腔に限らず、がん治療は診断にはじまり、ステージング評価、治療法の立案、そして患者との対話を通して方針を決定していくShared-decision makingのプロセスが極めて重要である。方針の要となる標準治療は世界中で進行している臨床試験によって日々更新され、選択肢の数も増えている。これらがん診療に共通する基本事項を理解し、必要となる知識と態度を修得する。

授業計画

- ①がんの基礎知識
 - ・分子生物学と発癌のメカニズム 4コマ 小澤重幸
 - ・がんゲノム 4コマ 安部貴大
 - ・診療ガイドラインと倫理規範 4コマ 安部貴大
- ②検査と診断
 - ・画像診断と病理診断の流れ 4コマ 沢井奈津子
- ③治療
 - ・チーム医療の流れ 4コマ 安部貴大
 - ・治療方針決定のプロセス 2コマ 安部貴大
 - ・治療概論（外科、放射線、薬物） 4コマ 安部貴大
- ④新規治療法への展望 4コマ 安部貴大

教科書および参考書

頭頸部癌取り扱い規約、口腔癌取り扱い規約、頭頸部癌診療ガイドライン、口腔癌診療ガイドライン

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

全身的な所見の取り方、検査法の概要が理解でき、また文献検索が適切に行なえ、論文の情報を正確に読み取る能力が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ①がんの基礎知識を理解し発癌や転移などのメカニズムの基本を説明できる
- ②頭頸部がん領域における診断から治療の流れとチーム医療の意義を理解し説明できる
- ③科学的根拠に基づいた治療方針を理解し説明できる。
- ④最新の文献を検索し新たな研究テーマを立案、実践することができる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	30%	20%	30%	20%	0%

評価の要点

- ・レポートは、授業計画で行った講義について課題を提出する。6% x 5回=30%
- ・成果発表は、症例報告などの形式で学会発表する。1回20%
- ・ポートフォリオは、担当する症例の治療計画、研究立案を提出する。10% x 3回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後やカンファレンスで知識理解度を判定する。1% x 20回=20%

理想的な達成レベルの目安

がんの基礎知識に関する理解度の達成レベルでは70%以上、診断治療法の説明能力と態度を主とする総合評価で80%以上を求める。